

単元構想

単元名【 読んで考えたことを話し合おう 】

教材名【 ごんぎつね (新美 南吉) 】(全14時間)

4年 林 有子

⑤【単元目標】 場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ち、関係の変化を考え、グループ交流、全体交流で話し合う中で一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

⑥【単元の言語活動】 物語を読んで感じたことや考えたことを話し合いで伝え合う。

(相手：学級の仲間 目的：自分の感想を伝える 方法：グループ・全体交流の場 場面：国語の時間 評価：友達と感想を比べて伝えているか)

④【教材の特徴】

・ごんと兵十の関係やすれ違いから生まれる結末に、様々な視点から感想をもち登場人物の気持ちの変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品。

③【既習事項】

・『白いぼうし』では、会話や行動から人物の人柄や心情を、描写から場面の様子を想像し、感想を発表し、感想文を書くことを経験している。

②【児童の実態】

○言葉に着目し、会話や行動から人柄や気持ちを想像することができる。
△仲間の感想を聞いて、自分の考えと比べて、新たな見方に気付く力が弱い。

①【重点とする指導事項】

文章を読んで、考えたことを話し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

【 読むこと (1) オ 】

⑦【言語活動成立の要件】

ア 登場人物の誰かと自分を重ね合わせたり、書いてあることを経験などと結び付けたりして物語を読んでいる。
イ 読んで感じたことや考えたことを伝え合うと、自分が気付かなかったことを教えられ、物語の読みが深まったり広がったりすることを理解している。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を書き、単元の学習計画を立てる。 ・並行読書も取り入れながら読み、グループや全体で話し合うことについて見通しをもつ。 	<p>【第2次】8時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即しながらごんや兵十の気持ちを読み。 ・場面ごとに読み取ったごんの気持ちをもとに学習後の感想を書く。 ・グループ交流をして、自分の考え話したり、友達の意見を聞く。 	<p>【第3次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新美南吉の他の作品を読んで感想を百字程度で書く。 ・書いたものを交流し、意見や感想を伝え合う。
--	--	--

並行読書・・・新美南吉の作品を紹介し、朝活動など授業外で読めるようにしておく。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「てぶくろを買いに」を読んだ感想文を紹介する。単元の出口で並行読書した新美南吉の作品をグループや全体で感想交流することについて見通しをもつ。 	<p>【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開 各場面でのごんの気持ちを全体で交流する場を設定し、友達の読みと比べて考え、さらに課題に迫るために「深めの発問」で掘り下げる。 ・まとめ 毎時間の終末に「感想」をグループで交流し、その後もう一度自分の「感想」をまとめ直す時間を確保する。 	<p>【第3次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新美南吉の他の作品を読んだ感想を、百字程度にまとめる。 ・同じ作品を読んだ仲間と感想を交流し、友達の考え方との違いについて発表する時間を作る。
---	--	---

⑩【支える学習環境】

・考えの足場となる教室掲示(単元を貫く課題の掲示、学習計画表の掲示、初発の感想の掲示)
・並行読書用図書(新美南吉の他作品) ・考えをつないだ話し方の話型の掲示

【研究とのかかわり】

(1) 願いを明確にした単元指導計画の工夫

・登場人物の気持ちの変化を読み取った後に、感想をグループ交流する。第3次では、毎時間書き溜めたものをまとめた感想文を交流することで、自分の考えを見つめ直すとともに、作品に対する理解を深めることができるようにする。
・1次の初発の感想から読みのめあてを作る。
・第3次で新美南吉の他の作品の感想を話し合う時間を設定し、考えを交流することで作品を読むことの楽しさや互いの考えの違いなどを感じ取れるようにする。

(2) 考えを深め、広げるための指導の工夫

・「深めの発問」は、ごんの気持ちの変化が分かる「いわしを投げ込んだ」と「そっと置いた」という言葉の比較について問いかけることで課題に迫ることができるようにする。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

・感想のグループ交流では、友達の意見を聞いて考えたことに(⊗)マークを付けて感想に書き加え、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付くことができるようにする。

◆本時のねらい

「次の日には」「次の日も、その次の日も」や「投げ込んで」「そっと置いて」などの行動や様子が分かる表現に着目し、ごんの行動や心情の変化を考えることを通して、友達と交流して一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。

◆本時の展開 (6/14) 3場面 <P16L11 ~P19L7>

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点 (☆人権教育の視点)
つかむ	1 前時を振り返り、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">なぜごんは兵十の所へ何日も物を持って行ったのかを話し合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時のごんと兵十の行動や気持ちを振り返り、本時の課題への意欲付けをする。
	2 一人読みをし、全体交流をする。 ・「おれと同じ、ひとりぼっち・・・。」→かわいそう。あんなことしなければよかった。 ・「まず一つ、いいことをした」→きっと喜ぶだろう。今度はどんなことしてあげようかな。 ・「次の日には、くりをどっさり」→ 元気出してね。喜ぶかな。 ・「ひどい目にあわされた。」→しまった。いいことしたつもりだったのに。ごめんなさい。 ・「次の日も、その次の日も」、「くりばかりでなく、松たけも」→まだまだ足りないだろうなあ。 →ひとりぼっちだから助けてやろう	
考える	3 深めの発問を聞いて考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎いわしを投げ込んだ時とくりや松たけをそっと置いた時のごんの気持ちは同じだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる叙述を明らかにして話させるように、切り返しをする。 ☆自分と同じ「ひとりぼっち」に着目して兵十の気持ちを考えることを通して、相手の立場を理解することの大切さに気付くことができる。(認識力)
	・ちがう。いわしの時は「投げ込む」ので、ひとりぼっちでかわいそうな兵十に対して自分と同じだからと親しみの気持ちでよいことをしたつもりだったけれど、くりや松たけの時は、「そっと置いて帰った」ので自分のしたことを悪かったと反省して兵十のために自分にできる限りのことをしようと考えていると思う。	
深める	4 「今日のごんについて」感想を書く。 ・次の日も次の日もつぐないの物を届け続けているところが一番心に残りました。私はそんなごんのことを、始めは軽い気持ちだったけれど悪いことをしたと、くりだけではなく松たけまで持って行っているので、兵十を心配しているんだなあと思いました。がんばっているごんの気持ちが早く兵十に届くといいなあと思いました。	<ul style="list-style-type: none"> 比べ読みやつなぎ読みの話型を使って発表できた児童を認めていく。 「～のところが一番心に残りました。私はそんなごんのことを・・・。」という文型を示し、読み取ったことをもとに感想を書くことができるようにする。
	5 感想をグループで交流し、全体で交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・A さんがごんの気持ちが届くといいと言っていたので、私もそうだなあと思いました。 ・B さんはつぐないを続けてがんばっていると言っていたけど、私は優しいと思ったので少し似ているなと思いました。 </div>	
まとめ	6 本時の学習の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 評価規準【読む能力】 根拠を明確にして話し合い、一人一人の感じ方や考え方の違いに気付いている。 <話し合い・ワークシート> </div>